

第2回 輪島市復興まちづくり計画検討委員会

日 時：令和6年7月12日（金）

14時00分

場 所：輪島消防署2階大会議室

会 議 次 第

1. 開 会

2. 挨拶

3. 会 議

（1）民間団体の活動状況報告

・ 発表

輪島朝市の特徴を活かした施設整備構想

輪島塗を考える会（仮称）

一般社団法人輪島青年会議所

総持寺通り仮設商店街

町野町復興プロジェクト実行委員会

・ 質疑応答

（2）復興まちづくり計画の検討について

・ 報告事項

・ 基本構想（中間報告）

・ 質疑応答

4. 閉 会

第2回 輪島市復興まちづくり計画検討委員会 配席図 (敬称略)

		東北大学 教授 姥浦 道生 委員長		
(オブザーバー)				(震災復興対策本部)
輪島市復興まちづくり 特別アドバイザー 隈 研吾 (代理：阿知波 修二)	輪島市区長会 会長 久保 敬夫 委員			輪島市 企画振興部 部長 山本 利治
中小企業庁 経営支援部 商業課 課長 伊奈 友子	輪島市社会福祉協議会 参事 大下 百合野 委員	輪島商工会議所 会頭 久岡 政治 委員		輪島市 産業部 部長 永井 一成
国土交通省 都市局 市街地整備課 課長 筒井 祐治 (代理：熊木 雄一)	(一社) 輪島青年会議所 理事長 川口 有吾 委員	門前町商工会 会長 沢田 隆 委員 (代理：森谷 幹夫)		輪島市 建設部 部長 福尾 原悟
国土交通省 住宅局 住宅総合整備課 課長 浦口 恭直	国土交通省 北陸地方整備局 企画部 部長 信太 啓貴 委員	経済産業省 中部経済産業局 産業部 流通・サービス産業課 課長 藤井 隆史 委員		
(独) 中小企業基盤整備機構 北陸本部 本部長 押田 誠一郎	石川県 能登半島地震復旧・復興推進部 創造の復興推進課 担当課長 井田 政晴 委員	国土交通省 北陸信越運輸局 石川運輸支局 支局長 猿谷 克幸 委員		
(独) 都市再生機構 都市再生部 事業企画室事業支援課 課長 森 和子	公募市民 山崎 瑞稀 委員	公募市民 森 郁子 委員		
		公募市民 山下 祐介 委員		
事務局				

輪島市復興まちづくり計画検討委員会委員名簿（敬称略）

（任期：計画策定まで）

役 職	氏 名	備 考
東北大学災害科学国際研究所 空間デザイン戦略研究分野 教授	姥浦 道生	委員長
輪島商工会議所 会頭	久岡 政治	
輪島市区長会長会 会長	久保 敬夫	
門前町商工会 会長	沢田 隆	(代理出席) 副会長 森谷 幹夫
輪島市社会福祉協議会 参事	大下 百合野	
輪島市各種女性団体連絡会 会長	中門 睦子	欠席
一般社団法人輪島青年会議所 理事長	川口 有吾	
経済産業省 中部経済産業局 産業部 流通・サービス産業課 課長	藤井 隆史	
国土交通省 北陸地方整備局 企画部 部長	信太 啓貴	
国土交通省 北陸信越運輸局 石川運輸支局 支局長	猿谷 克幸	
石川県 能登半島地震復旧・復興推進部 創造的復興推進課 担当課長	井田 政晴	
公募市民	森 郁子	
公募市民	山崎 瑞稀	
公募市民	山下 祐介	

輪島市復興まちづくり計画検討委員会オブザーバー名簿（敬称略）

（任期：計画策定まで）

役 職	氏 名	備 考
輪島市 復興まちづくり特別アドバイザー	隈 研吾	WEB 参加 (代理出席) 阿知波 修二
文部科学省 文化庁 文化資源活用課 課長	齋藤 憲一郎	WEB 参加
経済産業省 商務・サービスグループ 文化創造産業課 伝統的工芸品産業室 室長	山口 徳彦	WEB 参加
経済産業省 中小企業庁 経営支援部 商業課 課長	伊奈 友子	
国土交通省 総合政策局 地域交通課 課長	墳崎 正俊	WEB 参加
国土交通省 都市局 市街地整備課 課長	筒井 祐治	WEB 参加 (代理出席) 熊木 雄一
国土交通省 住宅局 住宅総合整備課 課長	浦口 恭直	
観光庁 参事官（産業競争力強化）	本村 龍平	WEB 参加
観光庁 観光地域振興部 観光資源課 課長	柳瀬 孝幸	WEB 参加
独立行政法人中小企業基盤整備機構北陸本部 本部長	押田 誠一郎	
独立行政法人都市再生機構 都市再生部 事業企画室 事業支援課 課長	森 和子	

第2回輪島市復興まちづくり計画検討委員会の内容

① 民間団体の活動状況発表

(1) 発表 5団体 (15分×5団体=75分)

発表団体〔朝市〕輪島朝市の特徴を活かした施設整備構想

〔輪島〕輪島塗を考える会(仮称)

〔輪島〕J C (一般社団法人輪島青年会議所)

〔門前〕総持寺通り仮設商店街

〔町野〕町野町復興プロジェクト実行委員会

(2) 質疑応答・意見交換

◆休憩【10分】

② 報告事項、基本構想(中間報告)

(1) 報告

わじま未来トーク1の開催結果

区長会長へのヒアリング内容報告

(2) 基本構想(中間報告) -別冊-

(3) 質疑応答・意見交換

③ 今後のスケジュール

②（1）報告 わじま未来トーク1の開催結果

● わじま未来トークの概要【輪島地区】

分野	主な意見
①特徴ある教育づくり	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの減少に対応し、地域と共にある学校を目指す。住民が参画し、学校施設を活用した学びの場を提供。里山里海や自然を受け継ぐことも重視。市外からの留学生受け入れにより変化を生み出すことも検討。
②子どもの遊び場、活動場所	<ul style="list-style-type: none"> 仮設住宅の設置等により、室内外の遊び場が不足。親子や地域住民が集まる場の提供を目指し、行政や支援者の協力を得ることで、安心してひとときを過ごせる場所や子供の今の成長に必要な（仮設でも良い）グラウンドが必要。
③市民が主体となり活動を支える仕組み	<ul style="list-style-type: none"> 市民が楽しいと思える活動を自主的に行うことが出発点。外部のボランティアや団体とも協力し、持続的な活動を目指す。議論の場も重要視。未来トークのような場も100回？まで続けられれば
④関係人口を増加させる	<ul style="list-style-type: none"> 輪島出身者や市外の人々との関係を強化する。年に一度のイベントや農作業の手伝いなどで、関係人口を増やし地域の魅力を広める。
⑤生業の復興、新しい起業家の育成	<ul style="list-style-type: none"> 若者が魅力を感じる仕事の創出が重要。輪島塗りの業界改革や、テクノロジーを活用した人手不足の解消策を提案。市が主導して就労マッチングアプリ開発も検討。
⑥環境とエネルギーを意識した街づくり	<ul style="list-style-type: none"> 大規模な自然エネルギーの活用と防災対策（オフグリッド含む）、小規模な自然との共生を目指す。森の再生や持続可能な生活スタイルを提唱。
⑦医療と福祉	<ul style="list-style-type: none"> 能登空港近くに総合病院を建設し、専門医が働きたくなる環境を整備、若い医者の人材を育成。心のケアも重視し、精神科への偏見を減らす取組も必要。
⑧コミュニティづくり	<ul style="list-style-type: none"> 災害を契機に生まれたリアルなコミュニティとSNS上のコミュニティを強化。散歩道の整備や集会場での交流促進を提案。SNSでの発信も重視。
⑨これからの朝市	<ul style="list-style-type: none"> 朝市や本町商店街を地域のシンボルとして再構築。地元住民と観光客が交流する場とし、朝市の魅力を発信。市民参加型のイベントも提案。
⑩食、農業、地産地消	<ul style="list-style-type: none"> 安心安全な農産物のブランド化とエコビレッジの設立を目指す。温暖化対策としてバイオマス利用も提案。地元産の野菜や魚を広め、持続可能なライフスタイルを発信。

②（1）報告 わじま未来トーク1の開催結果

● わじま未来トークの概要【門前地区】

分野	主な意見
①関係人口の構築と人材の確保	<ul style="list-style-type: none"> 定住側の受け入れ体制確保、生きづらさを感じる人の避難場所として再生。空き家バンク、ボランティアで来た人が何度も来てくれる交流人口を増やす。
②里山里海の魅力を活かした一次産業と観光	<ul style="list-style-type: none"> 様々な世代が能登を体験、来てもらう必要。地震被害を生かす取組（震災ジオパーク）、サマープログラム、冬の海を知ってもらう。好きになってからもっと好きになってもらう人が増え、最終的には移住者だったり関係人口が増えるしくみづくりを進める。
③復旧復興に向けた合意形成	<ul style="list-style-type: none"> 長老たちと若者世代の考え方のギャップがある。長老たちは 既存の意思決定のプロセスを大事にしがちだが、行政と市民、みんな一緒に話し合う場所で、世代間を超えて、長老の方々も来てくださって、一緒に話し合いをしたい。
④まちと生業の再生・創出(新しいまちと仕事をつくる)	<ul style="list-style-type: none"> 地域のブランドの維持（海洋資源のブランド化、総持寺など）、新しいチャレンジ、新しい産業（木加工、海産物加工＋販売、ワーケーション）、働きやすい環境作り、雇用作りを進めたい。
⑤福祉(高齢者・障がい者が安心できる暮らし)	<ul style="list-style-type: none"> 人生の最後を門前で、家族や親しい人に囲まれたくらし、孤独を防ぐ日々のつながり、コミュニティ、ハード（バリアフリー）＋ソフト（メンタルケア）、ケアする人財確保が必要。
⑥子どもの教育環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> ママたち自分たちで出来ることからやってみよう、イベント・場をつくる（スポーツ、料理教室、塾、など）、子どもたちに教育の選択肢を増やしたい（学習の不安解消）。
⑦市民が主役になる活動と仕組みづくり	<ul style="list-style-type: none"> まちづくりに無関心な人を巻き込む、イベント一緒にやることで「自分ごと」にする、各地域に用途自由の資金を配って地元で何やるか地元で考えてもらい（集落ごとの自己決定）、小さいイベントの積み重ねで若い人の意識の底上げを図る。

②（1）報告 わじま未来トーク1の開催結果

● わじま未来トークの概要【町野地区】

分野	主な意見
①個人的に楽しいからはじめる未来	<ul style="list-style-type: none"> 今なら夢にチャレンジ出来る、変化を恐れない、年内：体育大会、祭り、砂浜利用（ビーチスポーツ）、来年：憩いの場・遊び場づくり、長期：東陽中を総合施設化（支所、ATM、コンビニ、カフェ、図書館など）、新エネルギーの活用など。
②話し合う文化づくり・復興のプロセス	<ul style="list-style-type: none"> 話し合いが苦手な文化からの脱却、ワークショップ100回やる、行政に頼らず自分たちで議論して市役所に地域から提案していきたい、対立ではない話し合いの場で地域の妥協点を探る、そのため市には地域ファシリテーターの派遣をお願いしたい。
③子どもの教育・子育てしたいまちづくり	<ul style="list-style-type: none"> 子供にとって魅力的な大人が多い、いい大人が力強く生きていく姿を子供たちに見せつけてやる。外から子どもたちにも選ばれるような地域になる（地域留学など）、自然も良いが映画館も行きたい！→オンラインでも出来ることを考える。
④暮らしたいまちをつくる(自分たちの暮らし)	<ul style="list-style-type: none"> 人が集まるところに会話が生まれる（舅・姑の悪口？から会話が弾む、など）→集まるきっかけ作りが必要、スポーツクラブにサロン・カフェを併設、各集落・仮設住宅にビールサーバーとコーヒーサーバーを置いて集まれる場づくり（「サーバーの町・町野」）を進める。
⑤若い人に選ばれるまち(外から見て魅力的なまち)	<ul style="list-style-type: none"> 外部の力を借りて観光プロモーション（震災遺構、観光資源活用、アート、自然の魅力を活かす）、若者の力を借りる、企業学校の誘致（国内留学）など。このままではいけないという思いが原動力。

②(1) 報告 区長会長へのヒアリング内容報告

■区長会長個別訪問の概要

【目的】

- 各地区・集落ごとの現時点での課題の把握（地区住民の避難や住まいの状況、喫緊の課題、住民の声など）
- 今後の復興・再生に向けた思いの把握（復興に向けた活動状況、必要な支援・サービス、今後の住まい方など）
- 住民・行政とのコミュニケーション・連携の充実
- 復興まちづくり計画への反映、将来の集落のあり方について（地区単位での移転の意向など）

【意向把握のプロセス】

- 19地区別に区長会長を訪問
- 今後、各地区の区長会や会合に参加させていただき、より詳細な意見を把握する（地区の状況に応じて柔軟に対応）
- 訪問者：コンサルタント複数名＋外部協力の学識経験者

	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
検討委員会		7/12	8/8 懇談会 7地区	基本構想 (案)		基本計画 (素案)	パブリック コメント	復興まちづ くり計画 (素案)		復興まちづ くり計画 (案)
区長会長 個別訪問	6/18～28	7/11 市区長会長会 ●	●	●	以後継続的に実施					
		※地区の区長会長会や会合等に参加 (承諾が得られた地区)								

② (1) 報告 区長会長へのヒアリング内容報告

■ 区長会長個別訪問の結果の要点

【現時点での課題】

- 公費解体や仮設住宅が進んでいない。地区によって進捗がバラバラ。誰がどこに避難しているかが**不明**。
- インフラ復旧は進んでいるが、一部が未整備。浄化槽や屋根補修の修理業者が不足。冬が来る前に補修が必要。
- 土砂災害がまた起こるという不安があり、大雨時には避難を繰り返している。
- 漁港の隆起や田畑の損壊により、水産業・農業などの生業（なりわい）が**中断**している。
- 病院や買い物が**不便**。コミュニティバスなどの移動手段が少ない。

【復興・再生に向けた思い】

- 早く災害公営住宅に入って、畑などで野菜作りをして健康に暮らしたい。
- コミュニティの拠点である公民館・神社・仏閣の復旧、精神的な復興となる お祭りの再開が非常に重要。
- 朝市地区や重要伝建地区など、地域特性に応じて、かつ高齢者でも対応できる生活再建(建替え)を検討してほしい。
- 港の再生による水産業や、田畑の再生による農業など、実情を踏まえた 生業(なりわい)の復興が重要。
- 隆起した海岸を有効活用して、観光施設や企業誘致などの拠点づくりをして、若い人が戻れるまちづくりが必要。

【将来の集落のあり方】

- 同じ場所・風景を見て暮らしたい。若い人に帰って来いと言えない。自然消滅することは仕方がない。
- 集団移転の話も一部で出ているが、家族間でも意見の相違があり、みんな悩んでいる。話し合う時間が欲しい。
- 高齢者が多いので、便利な市街地にできる災害公営住宅へ入って安全安心に暮らしたい。
- 集団移転の理屈は理解できるので、時間をかけて話し合い、被災者みんなで判断したい。

③ 今後のスケジュール

項目		月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月			
輪島市復興まちづくり計画	復興まちづくり計画の策定		●市長メッセージ		基本構想(ダイジェスト版)			基本構想(案)	基本構想(案)	基本計画(案)		パブリックコメント	復興まちづくり計画(案)	復興まちづくり計画(案)				
	輪島市復興まちづくり計画検討委員会			①5/9 ●			②7/12 ●	③8/8 ○	④ ○		⑤ ○		⑥ ○		⑦ ○			
	アンケート				まちづくりに関するアンケート①			住まいに関するアンケート			まちづくりに関するアンケート②		*住まいに関するアンケートは必要に応じて2回目を実施					
	住民懇談会(7地区)							→										
	区長会長等個別訪問(19地区)				→ 継続して訪問(月1回予定)													
	わじま未来トーク					6/15,16 ●		8/10,11 ●										
	各種団体による協議検討				→													
朝市エリア検討関係	朝市周辺エリア先行プロジェクトの検討					先行プロジェクト方針(案)		先行プロジェクト方針(案)	先行プロジェクト(案)	実現方策の検討								
	地権者の意向把握					訪問等		→ 必要に応じて実施										
	朝市カムバックイベント						→		→ 継続的な実施も視野									

③ 今後のスケジュール

回	開催時期	委員会の内容（予定）
第1回	令和6年 5月 9日	委員紹介、計画の概要及びスケジュールの確認
第2回	令和6年 7月 12日	民間団体の活動状況発表 報告事項（わじま未来トーク、市民意見等） 基本構想（中間報告）
第3回	令和6年 8月 8日	基本構想（検討）、報告事項（調査等）
第4回	令和6年 9月	基本構想（案） 基本計画（骨子）、報告事項
第5回	令和6年 11月	基本計画（素案）、報告事項
第6回	令和7年 1月	復興まちづくり計画（素案）
第7回	令和7年 3月	復興まちづくり計画（案） 震災復興対策本部への提言